

摘されています。地域自治組織内では「共（協）和、共（協）生、共（協）栄」という3つの「共（協）」の共有を図り、想定外の災害などに対応するため「向こう三軒両隣」、「近所は近助」の定着化、消防団、日赤奉仕団などとの連携充実を図ります。また、東川土地開発公社と連携した宅地分譲により定住者確保に努めます。

▼「共（協）和」…地域の人が対話を通じて共鳴し、仲良く暮らす地域融和社会の実現

▼「共（協）生」…地域の老若男女が国籍を超え、人格を尊重しながら相互に補完し、生きることが出来る地域社会の実現

▼「共（協）栄」…地域や町全体がお互いに良くなり、繁栄できる地域社会の実現（国内外の人々の共栄を含む）

②医療福祉介護の連携のあり方検討

今後は超高齢化社会へ向かって加速度的に進んで行くこととなります。このような中、医療と福祉及び介護の効率的なサービスの在り方、特に次の事項について検討を進めます。

ア、高齢者の居場所とサービス提供のあり方
高齢世代への食事提供、除排

雪、暮らす場所、及び空き家利用計画の樹立を行い、支援内容について検討します。

イ、社会福祉協議会事務局と医療介護の連携のあり方
ウ、地域包括支援事業のあり方

③子育て支援と部活支援
3歳児未満の保育要望が強く

なっていることから民間保育団体と連携し、保育サービス需要に応えるとともに世代間交流ができるような取り組みも展開します。

ア、3歳未満児保育機能の充実
需要拡大傾向にある3歳未満児の保育施設の確保に取り組みます。

イ、外遊びなどと部活奨励推進
一年を通じた外遊びを幼児期から定着化させることは集中力、体力、社会性、協調性、創造性を向上させ、人間として成長する上で大きな効果があると指摘されています。教育委員会と連携し、子供たちの遊びの中心場所として「外遊び」を奨励して行きます。

また、小中学校及び高等学校の児童生徒の部活動の支援を積極的に行い、自律性、社会性、創造性など人間として成長する上で必要な体験機会の充実に取り組みます。

ウ、子育て教育移住

本町で子育てや教育を希望する大都市等の住民世帯を対象として、子育てと教育移住の推進

検討及び試行に取り組みます。

②ハブ機能

本町の魅力ある資源を求めて滞在する機能の充実に努めます（観光体験、北工学園、日本語学校を含む）。

今年からノカナンに「七色の噴水」が稼働することからダム貯水、大雪旭岳源水の湧水、そして噴水の「3水」を魅力としての発信に努め、人の往来確保を図ります。本町の魅力を体験できるように関係者と連携し、サービス提供体制の充実に努めます。

①ハブ魅力の発信

3つのKOU「観光、木工、健康」推進

「大雪山文化、家具デザイン文化、写真文化」を核として国内外からの誘客に努め、五感を刺激する体験型観光をJ A H I がしかわ、商工会、観光関係者とともに進めます。

観光については、大町桂月が絶賛した大雪山「お花畑」「羽衣の滝」の魅力、中谷宇吉郎が「雪は天から送られた手紙」と表現をした雪の素晴らしさと冬を体験できる魅力発信に努めます。また、環境省より運営が任される旭岳ビジターセンターは前述の魅力を伝える交流施設として運営を図ります。当分の間学芸員を配置し、関係機関団体の考え方が反映できるように取り組みます。

実現などに向けて新たな投資に支援ができるよう基金造成に取り組みます。（株主優待の大半が「東川米」）

第3 「学園のある町」の価値創造

人口8千人程度の小さな町に

学校法人北工学園、道立の東川高等学校、東川養護学校があることは町の大きな価値でありま

す。少子化が進行する中で、地方に学校があることの価値を住民とともに共有し、賢明な知恵を出し、魅力的で若者に選択される学校づくり活動の支援を継続します。

1. 北工学園、東川高校との連携

北工学園は昨年4月から経営が一新され、新たな地域に根差した学園としての運営がなされています。この学園は1億総活躍時代の実現には不可欠な保育士、介護職など福祉人材を育成する学校です。ふるさと納税制度や国の支援制度等を活用し、関係市町村などと十分に連携し、日本人及び外国人の福祉人材育成に努めます。また、地元東川高校との連携充実にも引き続き取り組みます。

2. 留学生等支援と学校経営の安定化

街中に常に3000人程の留学生が滞在し、年間の延べ宿泊数は10万泊を超えています。本町の消費純増や雇用の確保にも繋

木工については、新たに「君の空間」をキーワードとして民間団体と連携し、暮らし空間の提案を国内外へ発信することに努めます。また、公有化している美術工芸品「世界の椅子など」の保存と利活用に向けた検討を進めます。

健康については、自然や文化を通じて心身ともにリラックスできる魅力情報の発信に努めます。

②キトウシ森林公園振興計画（宿泊施設の整備、ホテル対策）

キトウシ高原ホテルが老朽化し、大規模改修が必要になっていることから、高原ホテルのあり方について東川振興公社を中心に運営を検討します。

③町中ハブ機能充実

町中には賑わいを創出するカフェやレストラン、ショップなどがあり、来町者が滞在期間をより引き延ばすことができるよう留学生等とも連携し、SNSなどを通じた本町の魅力発信に取り組みます。

また、総務省が推進している「ふるさと起業家支援プロジェクト」について商工会と連携し、展開して行きます。

③キー機能
上記の(1)と(2)を繋ぐ機能の充実に努めます。

①「せんとびゅあ」は社交の場
②「せんとびゅあ」は社交の場
③「せんとびゅあ」は社交の場
新たな創造は常に「人と人、

がっています。留学生の夢実現のため、多くの住民や文化団体ボランティア、近隣の友好団体などが関わり、連携に努め、コミュニケーション能力が高く、人間愛あふれる人材の育成を支援します。また、留学生の夢が実現（学費確保、就職実現など）するように相談窓口の充実にも努めます。

3. 町立日本語学校

全国初と言われる町立日本語学校の経営安定化と北工学園などとの連携により介護人材の育成に取り組みます。また、留学生の出口支援にも努めます。

第4 東川振興公社等と連携した新たな学び体験観光などの展開

1. 新しい体験型観光の展開
東川振興公社などと連携し、新たな体験観光の視点から「親子で日本語学習と日本文化・スポーツ体験」「冬を生かしたスリッパ体験」などの展開に取り組みしていきます。また、留学生に対しても体験機会の充実に努めます。

2. 食文化などの体験推進

アジアの米輸出の留学生でも東川米を高く評価しています。「寿司」「おにぎり」「カレーライス」など米食文化と合わせて「味噌づくり」「漬物づくり」などを通じ、未来へ向かって日本食文化の輸出及び食文化の拡

人と文化、人と自然」の出会いの中から誕生しています。出会いは刺激であり、進化の源になっています。「せんとびゅあ」は町内外の老若男女が「集い、語り、学び、創り、楽しむ」新しい社交（出会い）の場、たまり場、憩いの場であり、第3の居場所でもあります。「せんとびゅあ」を発信拠点として人間の動きを生み出し、経済の地域循環が展開されるよう情報提供に努めます。

また、「読書」「文化芸術」「遊び（スポーツを含む）」の3つの体験が人間の成長に重要と言われています。専門的な視点から楽しむことができるように努めます。

第3の居場所としての利用拡大を進めるため試行的に開館時間を延長し、利用者の利便性向上を目指した取組みに努めます。特に読書については、低年齢児の読書習慣化が定着するように司書とボランティア団体との協力連携の下、活動を支援します。

2. 資源確保（地場産業振興を含む）

本町の自然や人、文化に関する資源を掘り起こし、利活用することによって「人間」の動きの活発化に努め、地域経済の発展に努めます。

(1)文化、自然資源の掘り起こしと文化財指定など
複合交流施設「せんとびゅあ」

大にも努めます。（JICAとJ A H I がしかわとの連携に参加）

3. 海外事務所での試行的な販売

アジア各地の東川事務所、民間輸出団体と連携し、本町で作られているもの（家具、クラフト、マンガ本、写真、食材など）を試行的に販売し、輸出の可能性について取り組みます。

第5 健全な財政運営

「健全な財政運営」は「堅実な歳入確保」がベースとなります。きめ細かい住民福祉向上を目指すためには安定的な財源確保が課題となつてきます。地域内の経済循環を「共栄」の視点から展開できるように努めます。

第6 おわりに

新たな4年間の任期がスタートする年度であります。本町は宝の宝庫であり、北海道の中心部に位置し交通の要にあります。「国道、鉄道、上水道」という3つの道がないことも価値（宝）として町づくりに取り組みます。職員の「チーム力、挑戦力、実現力」、そして関係機関団体の「結束力」、議会との「連携力」を生かした町づくりを進化させたいと考えています。

平成31年4月
東川町長 松岡市郎

(3)文化資源を活用した町のPR
60年以上も前に書かれた世代を超えて読み継がれている著書「牙王物語」、菅原浩志監督の映画「写真甲子園0・5秒の夏

は「大雪山文化、家具デザイン文化、写真文化」を中心とした大切な文化資料を保存し、伝承する施設としての機能も有しています。本町に存在する資源を掘り起こし、教育委員会と連携し文化財としての指定化を図り、次世代へ引き継ぐことができよう努めます。

(2)文化資源の利活用

1985（昭和60）年に写真の町を宣言し、国内外で活躍する写真家に対して授賞を行うなど写真文化振興に努めてきています。受賞作家からの寄贈作品、国際機関団体からの寄託作品など作品が相当数に及ぶこと、更に30年以上経過する文化ギャラリイの大規模改修が必要となっていることから町制施行60周年事業の一環として、今年度の国の補正予算を想定し、写真の町実行委員会の中で協議検討の上増築も視野に整備の充実に努めて行きます。

また、各種指定の文化財（指定予定のものも含む）についても今年度から「東川宝物の蔵（令和の院）」（仮称）整備を検討し、合わせて利活用計画に基づき常設展示企画などを推進します。

60年以上も前に書かれた世代を超えて読み継がれている著書「牙王物語」、菅原浩志監督の映画「写真甲子園0・5秒の夏